

2020 年度 地域連携活動報告書

連携先名称：群馬県富岡市

協定締結日：平成 26 年 12 月 22 日

活動状況：継続中

連携先窓口：企画政策課

活動資金：2020 年度は無

担当教員（所属）：櫻井 健志

活動体制（単位）：アイテムを選択してください。

関連教員（所属）：長島 孝行（元農学科教員）

活動目的：富岡産シルクを使った商品の研究開発、桑や養蚕の振興を促進し地域活性をはかることや市内に養蚕の原風景を取り戻し、国産シルクのブランド力や地域のブランド力をより高めていく。同時に学生の学びの場にしていくこと。

活動内容・成果：

2019 年度に始まった障害者施設とみおか繭工房での繭生産が年間 1 トンにまで至る。また繭糸の質も向上。障害者の参加は 40 名に到達。

2020 年 4 月には、とみおか繭工房で作成したシルクを使用して農大農学部学生とオープンイノベーション型で SDG s シルクマスクを企画開始（コロナ禍のため学生、施設、企業との zoom 会議を毎月開催）

2020 年 10 月には現地施設の養蚕の現場、マスク作りを視察（担当者は長島先生）

2021 年 3 月には SDG s シルクマスクが企業からの協賛を得て、社会実装にまで到達。

富岡市内のとみおか繭工房（障害者施設での養蚕）との農福連携により、SDG s シルクマスクの社会実装に至る（企業数社が協賛、糸づくり、マスク作り、販売にまで至る）

・活動成果

SDG s マスクに関する広報を学生、タレントの大桃美代子さんが実施。またミス日本の紹介の場でもこの取り組みとマスクが披露される。

2021年1月には、このことが読売新聞にも掲載される

上記の取り組みが「SDG s 群馬ビジネスプラクティス」に選定される

課題・改善点：今後も実施するなら、大学に地域連携事務本部を大きく置き、地域と大学双方での特別予算を確保することが必要である。また最も重要なことは、地域の活性に連動するような成果が必要であろう。

追記：現在、富岡市庁舎前に富岡シルクを紹介する建物がリニューアル中で、この中身についての検討が市と検討されている。